



「理解をしないで信じること。その先に想像を越える祝福がありました」

2019年にロゴスホープ号に乗船し、2年2ヶ月の奉仕を終えた中道実由香さんからの証です。

2020年コロナウイルスが世界中でパンデミックとなり、思っていたよりミニストリーができない時期もありましたが、私はそんなコロナ禍のなか恩恵を受けた一人です。

船がロックダウンとなり、クルーが約4ヶ月間一歩も外に出れなかったとき、私はチームでアメリカへ派遣されていたためその間も現地のミニストリーに関わることができました。そこでの仕事はインターネットで注文を受けた本を梱包して発送することです。コロナの影響で自宅過ごす人が増えたため、その結果オーダーが殺到しました。こんな世の中でも人々が希望を購入し、その働きに自分が関わることができていること。神様は確実に目的をもって私をここに導かれたのだと感じました。毎日増えていくオーダー数と忙しい日々が私にとって大きな喜びとなりました。

そしてその後ロゴスホープ号の本部があるドイツに渡り、再び船に戻って来たことは当時のコロナ事情を考えると奇跡でしかありません。

そんな時期に船での奉仕延長をもう一年決意し、経済的なサポートが与えられたことも本当に驚きでした。祈りの力、そして信じて従う者に神様は十分に与えてくださるのだと感じました。

それまで書店で勤務していた私は、船に戻ってからは清掃部署で働くことに

なりました。コミュニティに仕えること、隣人を愛すること、ミニストリーはなにも外で何かをすることに限らず、この船そのものがミニストリーの場だということに気付かされました。

船がよく使われていたのは“Be FAT”という言葉。Flexible (柔軟性) & Adaptable (適応性) を持ち、Teachable (教えられやすい) な人間になること。このFATを通して自分の殻(Comfort zone)から出ることで私は更に祝福を受けました。

そして神様は再び私を書店に呼び戻し、Bookfair再オープンに関わることができました。書店の再オープンへは本当に長い道のりでした。なのでオープン当日は「またこんな日が来るなんて」と夢のようでした。

今まで管理職やリーダーシップなどは避けてきた私でしたが、最後はシフトリーダーの一人として用いられました。自分が出来るできない、やりたい、やりたくないとは別に、神様が私にどうあって欲しいか。それは従順な僕であることでした。

私は更に2ヶ月間延長をし、クルーの入れ替わり時期に伴うトレーニングや引き継ぎなどをサポートしました。

今振り返ってみると困難も含めてすべてが糧になっていると言えます。

「こんな時期に船に乗って」と思う方もいるかも知れませんが、私にとって

は主の与える完璧なタイミングでした。神のなさることは皆その時にかなって美しい(伝道の書 3:11)という聖書の言葉のとおりです。理解をしないで信じること。その先に想像を越える祝福がありました。

### 海外奉仕者募集

#### ロゴス・ホープ号

世界 1年間/2年間  
ロゴス・ホープ号には常時60カ国から400人以上の人がボランティアクルーとして乗船。様々な国を航海し、寄港先と船内でミニストリー。ロゴス・ホープ号乗船中は、毎日決められた部署での仕事を行い、さらに様々な形式の宣教と弟子訓練に参加していく。

### 祈ろう



ロゴスホープ号には現在も下記の3名の日本人クルーが乗船しています。体調が守られ、また霊性の面でもFATによって高められるようお祈りください。木村真梨江(岐阜県)野口聖恵(三重県)深水典幸(神奈川県)



### 緊急募集



## アフガン支援献金のお願い

Image: Reuters

### 献金方法

「アフガン緊急支援献金」と明記し、下記のOM日本事務所の口座までご送金ください

郵便振替口座02100-0-24998  
加入者名「OM日本事務局」

お問い合わせはOM日本事務局まで  
電話:076-239-2830  
www.omjapan.org/give

1979年のソビエトによる侵略戦争に始まり、アフガンは42年の戦争を経験しています。そして2021年9月のアメリカ軍撤退を機に、アフガンは再びタリバン政権下でさらに厳しい混乱状態に陥りました。目にするニュースの映像や報道に心を痛めます。社会のあらゆる面で人々の暮らしは不穏な状況となっています。今私たちOMインターナショナルは、アフガンとその周辺国の人々が祈りと支援を切実に必要としていることを確信し、緊急の支援献金プログラムを立てあげました。ご協力お願い致します。

### 支援献金の目的:

OMインターナショナルの難民危機部門は、以下の活動のために支援献金を集めております:

- ・国外に避難し、難民生活中の人々への実用的な支援
- ・現地の教会や避難することのできない人々への支援
- ・アフガン・クリスチャンの霊性を支えるための現地語の聖書や文献の提供
- ・アフガン向けに放送している現地語でのラジオ、テレビの放送、インターネット配信のための支援

お祈りください: 9月時点にて220万人の難民、また国内に於ける350万人の避難民のため。  
人々の安全な移動、シェルター、食料、水などの基本的な物資の提供、トラウマからの回復のため。

### OMのミッションステートメント:

私たちの願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられることです

OM (Operation Mobilisation) は、世界約110カ国で3200名が活動している超教派の国際的宣教団体です。OMは世界宣教のために奉仕者の育成と、最も福音が伝えられていない地域への伝道、そしてイエスに従うものによる生き生きとしたコミュニティが形づくられ、それらが育成されていくことを目標としています。



### OM日本・OM Japan

om.org/jp fb.me/omjapan info.jp@om.org  
+81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX) 〒920-0277 石川県河北郡内灘町千鳥島2丁目394  
郵便振替口座 02100-0-24998 加入者名「OM日本事務局」  
OM日本ニュース 第77号 2022年冬号  
発行人: スティーブン スミスドルフ 編集&デザイン: 近藤健二



### 緊急募集

## アフガン難民へ緊急支援献金のお願い

P6

## アート・ミニストリー 仙台アトリエ



P2

## & アート宣教の 海外弟子訓練



THRIVING ARTISTS - VIBRANT COMMUNITIES



MY JOURNEY  
Ex-Omerの歩み

連載

## 世界宣教への 祈禱会スタート

P2

## 中道実由香さん ロゴスホープ号報告

P5

理解をしないで信じること。その先に想像を越える祝福が

特集  
コロナ禍で  
私たちが見た  
幸いな出来事

P3-4



# 世界宣教への 祈禱会スタート

## MY JOURNEY Ex-OMerの歩み

船越信哉

Ex-OMer達がオンラインを通して「季節ごとに集まって祈ろう!」と、2021年度より『exOMer祈禱会』がスタートしました。今年3回、『春』『夏』『秋』と開催し、参加人数も少しずつ増し加えられています。いつも再会と新しい出会いがあり、主に祝福されたあつという間の1時間半の時です。

この祈禱会は『Momentum』と名付けて、一般の集会よりも世界宣教を掘り下げた内容で語り祈っています。世界の最も福

音の届いていない人々のなかで、イエスに従う生き生きとしたコミュニティが形づくられていくことを願って、とりなしの祈りをしています。

興味のある方は船越まで連絡を!  
shinya.funakoshi@om.org  
携帯: 080-4485-4942  
LINEへは右のQRで



## INSPIRO ARTS ALLIANCE

OM国際アート・ミニストリー  
「INSPIRO」

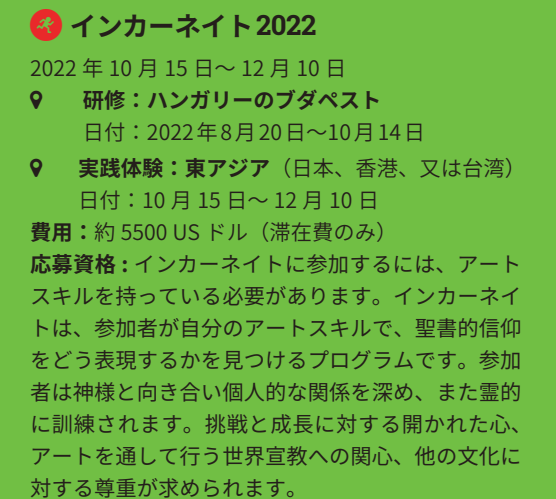
inspiroartsalliance.org/

資料申し込み: manna.man@om.org  
映像、ミュージック、演劇、絵画のあらゆる面で、主からいただいたアートの賜物を賛美と伝道に生かし、育て上げていくミニストリー

## 参加しよう INCARNATE THRIVING ARTISTS - VIBRANT COMMUNITIES

### インカーネイト2022

2022年10月15日～12月10日  
 ① 研修: ハンガリーのブダペスト  
 日付: 2022年8月20日～10月14日  
 ② 実践体験: 東アジア(日本、香港、又は台湾)  
 日付: 10月15日～12月10日  
 費用: 約5500 USドル(滞在費のみ)  
 応募資格: インカーネイトに参加するには、アートスキルを持っている必要があります。インカーネイトは、参加者が自分のアートスキルで、聖書の信仰をどう表現するかを見つけるプログラムです。参加者は神様と向き合い個人的な関係を深め、また霊的に訓練されます。挑戦と成長に対する開かれた心、アートを通して行う世界宣教への関心、他の文化に対する尊重が求められます。



(上) 5000枚のマスクが、石川県河北市大崎にあるコミュニティセンターで配られました

2020年春、その頃マスクがなかなか手に入りませんでした。それで、香港に住む私の支援者が私達のことを心配してマスクを送ってくれました。届いたマスクは、かなりの数だったので、「どうすれば、地域の皆さんに配ることができるか」と考えました。そこで主は「新型コロナ予防キット」を作ろうと示してくださいました。キットにはマスクと香港製のビタミンCの飴、お手製消毒液、そして地域の人々を祝福する聖書のみ言葉も添えて用意しました。その後香港の支援者たちからのマスクの数は一万枚以上のを配布することができました。このことがきっかけで、その教会との間にはパートナーシップが生まれ、地域の人々と良い関係を築きました。外国のクリスチャンからの愛と思いやりが日本人の心に届けられたからです。主に栄光を!

石川県の宣教師より



2020年初頭に起こった新型コロナウイルスがこんなに世界を変えてしまうなんて誰が思ったでしょう。こんなに長くにわたり私たちの生活に影響を及ぼすなど、誰も想像していませんでした。ただ一人、主である創造主を除いて。世界の全ての国が苦戦するなか唯一、主はこの状況を支配し、このパンデミックを許され、そしてそれを主の栄光と御用のために用いていくのです。

今回、OM日本の宣教師の「コロナ禍に起こった主に栄光を返す出来事」を集めてみました。このことを通じて、私たちが励まされ、少しでも主の見解でパンデミックを見ていくことができるように。

宮城県の宣教師より

コロナ禍で教会の青年会はもう一年以上オンラインで集会していました。対面の方がきっと、もっとみんなと交流できると思ったけど、でもオンラインだからこそできることもありました。今年に入って隣の県に転勤した姉妹が、オンラインの集会だから参加し続けられました。遠くになっても、近況を聞いたり交わりができることに感謝しています。さらに、コロナ禍では、外食より少人数で家に招くことが好ましくなりました。一人や二人とゆっくり喋って、神様のことをどういふふうに思っているとか、一緒に誕生日を祝ったり、同じ空間で過ごした時間が愛しく思いました。同じ様に、神様は私達のことを愛しく思ってください、一人ひとりの祈りをじっくり聞いてくださることを、コロナ禍のおかげですごく感じました。



(上) 幼稚園に送られた新型コロナ予防セット。セットの中には読む人々の心を慰める神様の言葉が書かれたメッセージカードが



兵庫県の宣教師より

◆国内短期宣教旅行  
「コロナで海外の宣教旅行へ行けない…」しかし、主は国内宣教の機会を与えてくださり、1年で延べ100名を超える若者たちが短期宣教旅行に参加。イエス・キリストの福音を特に教会のない田舎地域で伝え、燃やされて帰ってきました。



(上) 大都市圏で休む場所のない人たちに、自然を楽しむ場所を提供することができました

三重県は大都市圏と比べてクリスチャン人口も、宣教師も極端に少ないです。空港も新幹線もコストコも無い。無いが3連発のど田舎。「都会と比べるとミニストリーはもっと厳しい」と思わせられていました。でもコロナ禍では、感染者数が少なく、都会ではありえないような対面ミーティング、自宅での会食、アウトドアによる未信者への伝道が可能。アマゾンでの買い物があるように、都会と田舎のギャップを無くしたように、コロナ禍では都会と田舎のミニストリーの機会が逆になりました。

三重県の宣教師より

8年前、近所の6年生たちが10人ほど毎日家に遊びにきていました。でも中学になると関係は徐々に途絶えていきました。そんな中、コロナ禍で高校や大学が閉鎖やオンラインになり、また彼らと繋がる機会が生まれました。その後、その一人がイエス様を信じ、教会で洗礼をうけました。コロナ禍でも主のはたらきは確実に起こっていました!



三重県の宣教師より

ある女性宣教師が、大都市圏での教会奉仕を終えて数ヶ月後に三重県に引っ越してくるようになっていました。そんな中、彼女の市内でコロナが急増したため、教会は門を閉じてしまいました。女性宣教師は、牧師さんの勧めで急きょ予定を繰り上げて三重に引っ越してきました。そしてちょうど病院から退院してくる時期だった私の母の家に宣教師が暮らし始め、退院後の母と9ヶ月間同居してくれました。退院後一人で暮らせない母にとって、コロナのタイミングは私たち家族に大きな祝福となりました。

行こう 地下鉄勾当台公園駅より徒歩で8分  
宮城県仙台市青葉区春日町6-18 AXビル3F

